

小金井良精 よしのぶ 解剖學・人類學者、醫學博士。安政五年十一月十日  
四日、越後國長岡注れ、昭和十九年十月十六日歿（八三—九四）。幼名  
銚之助。母は吉田虎之助（のち寅次郎、松陰）と並んで佐久間象山門  
下の兩虎と稱せられた小林虎三郎の妹、妻喜美子は森鷗外の妹、長男  
良一の妻は哲學者森本嚴實の長女で歌人素子、次女精の夫は藥業界で  
知名の星一 ほしむ。明治二年上京して大學南校に學び、十二年東京大學醫學  
全科卒。ドイツに留學して十八年歸朝、翌年東大醫科大學教授となり  
解剖學を講義。のち醫科大學長、日本解剖學會會頭、帝國學士院會員。  
また體質人類學の日本に於ける開拓者として、入文人類學の坪井正五  
郎と共に我が國人類學の先驅者となつた。

著書に『人類學研究』（大正十五年二月十五日本山書店）。『星新一  
の祖父・小金井良精の記』（昭和四十九年二月二十八日河出書房新  
柱）がある。